

◇総永代経法要での竹岡師の法話抄

本年は浄土真宗の所依の經典（浄土三部経）の一つであります「仏説阿弥陀経」の特質を懇切にお話しいただきました。アミダ経の最大の特徴は「無問自説」の教説とのご教示でした。問いなくして自ら説かれた教説ということです。アミダ経以外は全て釈尊に対しての問いに答えてのご説法という形ですが、唯一つアミダ経だけは釈尊に誰一人もお尋ねすることなく、千二百五十人のお弟子を前に最長老の舍利弗を名指しで語りかけるように説かれています。説法の中身はお浄土の荘厳です。何故浄土というか？何故極楽というか？「舍利弗よ」との呼びかけが36回を数えられますが、これは舍利弗を通して、私たちに浄土の様子を他角度（36の視点）からお説きいただいた有り難いお経ということでもあります。と、お話しを結んでいただきました。

◇雑草のたくましさ

屋上の排水溝に根付いた雑草のことです。除草だからと素手で臨みましたら大間違い。複雑に網目に絡み合い土を包み込むようにして生育している雑草にたくましさと威容を感じました。厳しい条件の中で順応し、発芽生育する中で、順応から適応に環境を整えてのたくましさと感じ入った次第です。

◇今月の安楽寺伝道揭示板

光に照らされる

ことによって

心の闇の深さが

わかる